

私の歌集

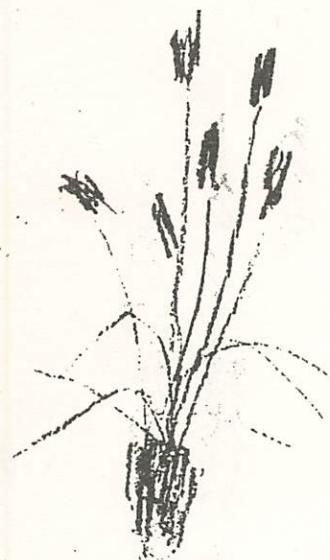
新宿ホールムレスの歌



宿士彦和行



目 次



卷頭言	二頁	
冬	十二首	三頁
春	十二首	七頁
夏	十二首	十一頁
秋	十二首	十五頁
詠者經歷	十九頁	
編輯後記	二十頁	

## 卷頭言

この一片のパンプ歌集は、私にとつては長いホームレス時代からの豫ての念願にひとしいものである。

支援グループの人たちの好意にさゝえられて多くの新宿周辺、又渋谷・池袋・高田の馬場遠くは川崎、ことぶき山谷の仲間たちとの共斗交流を通して

その献身的な底辺の生活斗争に依つて培われた人生の断片の愚言であり、漸く、とり敢えず実現を見るに至つた次第である。

卷頭十二首は、

一九九四年元旦より三月十四日迄の間

越年越冬対策に依る私にとつて最後の収容施設となつた  
大井太田寮、現在は「なぎさ寮」と呼ぶ処での所感である。

水淨く海甦るかに見ゆれども都會の塵埃の底に透きみゆ

よみがえ

ちり

みはるかす海の彼方の停泊船曳き行くごとく春の日の果つ

貧しさに追れつゝ来てみる海のかくも優しく吾が眼を奪ふ

うば

(一月二日、大井埠頭付近にて)

職を得てひとり仲間の新宿を離るゝ夜を霧ふりくる

みぞれ

はなむけ

祝別の辞さなき現身の吾が掌に篤き紙幣一枚

あつ

うつし

淡雪残し街の画商に落る陽の光明るき駅に降りくる

ゆき

お

(一九九四年二月十七日、一齊撤去問題起る)

路上生活者思わせてふる東京の雪いつまでも残留すらむ

ホームレス

風の音夜更けて荒さぶ救急車犬の遠吠えヘリの爆音この喧騒  
に孤り生きおり

底辺の飢えを支ふるタイ米を炊きてひと握りの飯配りゆく

冬、曇るひと日もりて河底を浚ふドツグの移動みつむる

こゝろなき越冬の灯よ再びはあらむと念じ退察すらむ

京浜運河ひかり耀よふ厩舎あり春立つ朝の路頭に迷ふ

(三月十四日朝 一齊退察大井太田察)

春をひさぐ貧しき國の娘らの健氣な職とたれか嘆げかむ

けなげ

(東南アジア出稼ぎ女性たち)

戦略に虐げられし國の米炊きてホームレスの今日も生き継ぐ

流暢な日本語ならむ煙草咬え比島の女の長き電話よ

りゅうちょう

(新大久保JR架橋下付近)

街の春孤りゆき音れてさまよえり葉ざくらとなるやさしき  
かげ  
蔭に

春昼の駅頭に立つ尼僧あり転寝のホームレス傍らにして  
うたたね  
かたわ

母の日に捧ぐるものゝ無くて来し手折りし花のわが掌に  
たお

萎えて  
な

(青山墓地にて)

春雷の閃めきわたらる宵ありま<sup>むな</sup>虚しきわれの心撃てよと

いつの世に女色に迷ふ罪ありて脂粉たゞよふ街の寂しき

母の背より見しは幻ひなげしの唉ける病院記憶蝕ばむ

新しき讃美歌一つ覚えて今日の祈りへ「我等の想いを超えて」

マタイの受難曲聴く夜の雨は吾がころろ洗い淨むる晩き春かも

(救世軍、讃美歌より)

時代錯誤の軍歌未だに顯ちくらむ國を憂ふ想いにならず

ひとり又職決まりたる仲間にて餞別<sup>はなむけ</sup>の夜の祝杯<sup>さかまい</sup>たのし

寸志ばかりの支援の酒に一夜ホームレスの活きいきとして

梶子<sup>くちなし</sup>の白く匂へる初夏あとに新宿旅発<sup>だ</sup>つ祝杯つゞく

(一九九五年九月七日、NHK取材列島リレーに據る)

「寄せ場」交流の交歓了へて教会の朝賑にぎわいへりバザー開かる

地域住民との関心テーマに選びたる談昂はなしたかぶる名古屋は熱あつし

名古屋城熱田神宮篠島の職安「寄せ場」夏の休日閑かんたり

(一九九五年七月、名古屋全国寄せ場交流参加)

ホームレスと言ふ語源調べに朝くれば仲間席占む図書館のあり

レベルかプライドか労ム者と被災者家なき熱帯夜を過ごす

(阪神震災被災者たち)

命綱巧みに捌き窓ガラス拭きつゝ降りくる黒人労ム者

放浪の足曳き摺りつ堀を行く狂える視界に上る遠花火

東京の街悉く歩き果て行きつく処新宿の灯よ

たまさかに経歴いつわり得しバイト今日は失ふ炎道遠く

(一九九四年八月 市ヶ谷外堀付近にて)

みづからの背信ゆえに転落す一家のありて秋くさの花

雁末紅かまつかの燃ゆる空地にしばらくは放心の足勞りており

秋冷うつを映して水を噴上ふきあがぐる夜の新宿駅前広場

ひたむきに老いを厭わず献身の仲間背たかく秋風の吹く

保護法の赤きスタンプ押されたる医療区分の診察券みつまる  
カード

(一九九四年十一月、生活保護となり新宿区へ)

風の示唆強く生きよと今日も吹くホームレスの背を叱咤し

つゝ

当 まさ しく価格破壊よなが年貯たくわえし脱退手当金砂紙なめるごと

(厚生年金脱退一時金)

コスモスの揺れる故郷の町に来て遠くふり返る東京拘置所

(一九九五年十月十三日、判決公判の仲間を想ふ)

玉姫の朝市に来て再会す馴染みの手配師笑顔の老けて

(山谷玉姫職安付近にて)

鰯雲茜にそめて落日の空の高さよ淋しき視点

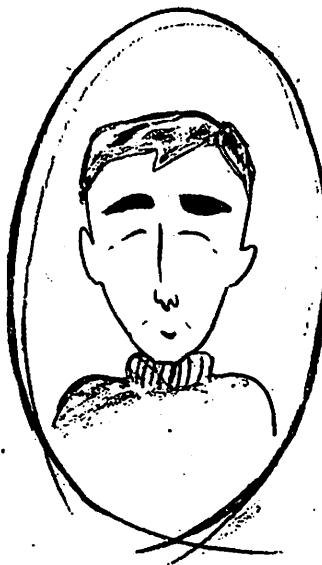
あかね

柿熟れて枝もたわゝに病臥せる父と別れし佐野の町かな

(栃木県佐野駅前診療所にて。昭和17年元旦)

新宿は風になつかし遂にある汝れの縮図ガ紙箱の家

シボール・マンション



## 詠者経歴

富士森 和行 新宿区西新宿4-28-22 細谷荘

- 1928年 9月 東京足立生まれ  
45年 8月 終戦時17歳。現芝浦工大付属に学ぶが  
戦災に遇ふ。  
54年12月 日清紡科学研究所退職。  
62年 3月 肺結核で清瀬国立東京病院療養。  
65年10月 退院以降、転々と放浪生活。  
1994年11月 新宿区で生活保護を受ける。  
現在、「新宿連絡会」のボランティア活動に参加。

今日に及ぶ、キリストの教へに依って救われた救世軍は私の  
余生の心の寄りどころである。

## 新約聖書より

神の愚かさは

人よりも賢く

神の弱さは

人よりも強い

キリストよりの支援を

・・・・・

救世軍本營

神田神保町神田小隊へ

〒101-0033 (3227) 0881-5555

“決戦越冬”ハカンパの嵐を！

1996—新春へ

毛布、衣類（防寒着・ズボン・下着）、お米も  
必要です。下記住所に送ってもらうか、大量の  
場合は車で取りにまいりますので一報下さい。  
越年闘争は12月28日から1月4日までの予定。  
直前に越年越冬闘争突入集会も予定しています。  
多くの人の協力で新宿越年越冬闘争を勝利させ  
よう。新宿コミュニティを守り抜こう！  
(新宿連絡会・事務局)

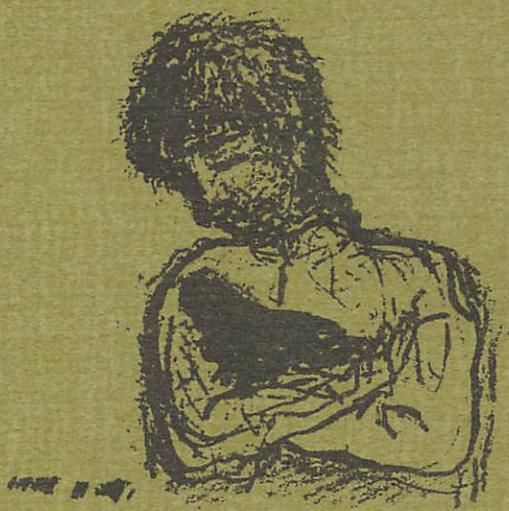
援助物資等、よろしく。

越年越冬斗争資金力カンパ

編 輯 後 記

東京都台東区日本堤1-25-11  
山谷労働者福社会館気付け  
新宿連絡会宛て  
電話 03(3876)7073 FAX 03(3876)1869  
郵便振替 00170-1-723682 新宿連絡会





1995年12月24日発行

定価 500円